



地図と鉱石の山の手博物館紹介

内山幸二

当博物館は2004年4月27日開館。私設の「地図と鉱石の山の手博物館」として開設し、2010年4月一般財団法人として体制を整えました。各地で岩石・鉱石・鉱物の収集を行い、各種機関より寄贈を受けるなど収蔵品の充実、魅力ある展示に努めてきました。また、特殊地図の収集と販売を継続しています。地域コミュニティーや各機関での教育活動を支援し、地質・環境に関する啓蒙普及を目的として博物館活動を続けています。

山の手博物館のテーマは「地図」と「鉱石」です。当博物館では、北海道にかつて多数稼働していた各種の金属・非金属鉱山の「鉱石」と、鉱山に関連する「資料」を収蔵・展示しています(図1)。それらの鉱山は現在ではすべて閉山してしまい、残された「鉱石」はいわば北海道の“歴史遺産”ともいべき学術的価値の高い貴重な試料といえます。

そしてこれらの鉱山開発を含めた北海道の発展に欠かせなかった必須の道具が「地図」といえます。鉱山や炭坑の調査成果ともいえる「地質図」をはじめ、北海道が“蝦夷”と呼ばれていたころの「古地図」などを収集・展示しています。

当博物館では、毎年北海道の様々な地質や自然、旧鉱山をテーマとした巡検を実施しています。最近では、日高三石の蓬萊山、平取町仁世宇の日東鉱山跡(クロム鉱山)、石狩の北前船が運んだ石材観察、古平町の稲倉石鉱山跡(マンガン鉱山)などを博物館の仲間と訪れ自然を満喫しました。

最近、地形・地質といった自然界の森羅万象について、それらの来歴を含めた科学的でわかりやすい解説を求めるといった要請が高まっていると感じます。このことに博物館としてどのように答えるか。楽しみながらの勉強しかないと感じる昨今です。一緒に楽しみませんか？

(一般会員、山の手博物館 館長)

連絡先

〒063-0007 北海道札幌市西区山の手7条8丁目6番1号
TEL : 011-623-3321
FAX : 011-623-1101
E-mail : info@yamanote-museum.com
HP : <https://www.yamanote-museum.com>

本通信は以下のURLにも掲載されています
<https://www.hrcg.jp/archive.html>



図1 山の手博物館の展示(上:岩石・鉱石・鉱物, 下:各種の地図)

日高山脈博物館紹介

東 豊土

日高山脈博物館は1999年に開館した、日高山脈とその周辺の地質や岩石を主に、自然や登山の展示を行なう登録博物館で、「日高山脈のジオ・ミュージアム」ともいえる博物館です(図1)。学芸員は私1人だけのハードな状況に加えて、近接する図書館も含め、さまざまな社会教育施設の管理運営事務なども1人で行なっています。

当館の位置する日高町日高地域は、北海道中央部の複雑な地質を有している、日高山脈北部の西麓の町で、国の天然保護区域「沙流川源流原始林」を源頭とする沙流川や、そこに流れ込む日高山脈を源頭とする数々の川があり、日高山脈がもたらす手つかずの大自然に恵まれた環境を有しています。

それらを展示・研究する当館では、小学生以上を対象とした「日高山脈ネイチャーセミナー」や「日高山脈自然体験隊」の自然体験事業、「石・鉱物・化石のお宝鑑定会」などのアウトリーチ活動なども開催しています。特に、当館の特色を生かした地質や岩石に関する野外観察会には、HRCG会員の協力も得ながら開催しています。募集人数は10~15人程度と少なめですが、道内各地から、地域の地質に興味を持った参加者が集まる人気の事業となっています。コロナ禍で規模縮小や事業中止もありましたが、順次活動を回復させています。

北海道中央部の地質や岩石については未だ謎も多く、最近では、とくに蛇紋岩



図1 日高山脈博物館外観

に関連する共同研究を行なっています。とくに、「日高ヒスイ」（図2）を含む蛇紋岩起源ロジン岩や、銘石である「幸太郎石」の起源や成り立ちについての研究などは、神居古潭帯の複雑な事象を考える上でたいへん重要です。

博物館法も改正され、登録博物館として存続するためのハードルは高くなりますが、当該地域の特色ある地質博物館として、積極的に活動を続けていきたいと思っています。ぜひご協力のほどよろしくお願いいたします。

（一般会員、日高山脈博物館学芸員）

連絡先

〒055-2301 北海道沙流郡日高町本町東1丁目297-12

TEL：01457-6-9033

FAX：01457-6-9033

E-mail：hmc@town.hidaka.hokkaido.jp

HP：<https://www.town.hidaka.hokkaido.jp/site/hmc/>



図2 日高山脈博物館1Fにおける日高ヒスイの展示

これからの活動計画

今後の活動予定を紹介します。お忘れなきよう皆様の予定表にご記入の上、ぜひご参加ください。

5月13日(土)通常総会・特別講演会『札幌を見下ろす山々(宮坂省吾)』(エルプラザ)

7月1日(土)第11回公開講座『地質学的に見た手稲山の形成史(松田義章)』(かでる2・7)

9月30日(土)第12回公開講座『根室沖～八戸沖で想定されている超巨大地震震源域での最近の地震活動とその課題(高波鐵夫)』(かでる2・7)

12月2日(土)第13回公開講座『地球環境問題と地質学(宮下純夫)』(かでる2・7)

会員紹介・会員短信



一般会員
杉山幹夫

確か6歳の頃、父にせがんで忠類村までナウマンゾウの発掘現場を觀に行きました。当然そこに化石はなくて札幌に帰ってきたら開拓記念館にあって親子でずっこけました。でも、収蔵庫で本物を触らせてもらいました。信州大学で農学部に入ったのに理学部の先輩のお手伝いで野尻湖のことを学びました。

2022年度第9回の宮下先生の公開講座に沼田町の横山町長と一緒にお願いして入会を申請しました。タカハシホタテがなぜか大好きです。

岩見沢でワイナリーを運営しています。ランギアの頃の海底で堆積したシルトの丘ですので、ミネラル豊富なブドウが穫れて旨いワインになります。以後、ご指導よろしくお願いいたします。



一般会員
森藤 勉

出身は富山県高岡市です。大学で地質学を6年間学んだ後、建設コンサルタント会社に現在まで約26年間勤めています。北海道には2000年4月～2020年3月までの20年間いましたが、転職を機に現在は仙台市に単身赴任しています。研究者ではなくエンジニアの活動がほとんどです。

入会の動機は、地質学を先輩の皆様から学びながらアウトリーチ活動などに貢献したいと思いました。皆様、よろしくお願いいたします。

小樽の小学校教員です。2022年度から全国で導入された「小学校高学年における教科担任制」の一環で、複数の小学校を掛け持ちして理科を教えています。2020年度から4年生に【雨水の行方と地面の様子】という単元が追加されました。水は傾いている方に流れる、土の粒の大きさによってしみこみ方が違う等が主な内容で、5年生の川と土砂災害、6年生の土地の構造と火山地震へと繋がっていきます。授業では、降雨後の地面の水の引き方を観察したり、グラウンドから土や砂を持ってきて水がしみこむ時間を計ったりします。

全ての子どもを川に連れて行き、地層をスケッチさせ、砂粒を触らせたいと思っているうちに、もっと小樽と北海道について知りたくなりました。皆様ご教授の程よろしくお願い致します。

福岡 氷見子（一般会員）



松田義章先生を担ぎ出し、親子ジオツアーなどやったりしています。～忍路海岸を海からご案内

編集後記

日増しに雪解けが加速し、春めいてきました。また、コロナ禍もようやく終息の兆しが見え始めています。これからは対面の活動を中心に盛り上げていきたいものです。この一年は、多くの新入会員を迎えましたので、今回の企画同様、本通信を通して、会員交流の場として、皆様の多彩な活動やメッセージをお届けします。(岡村)